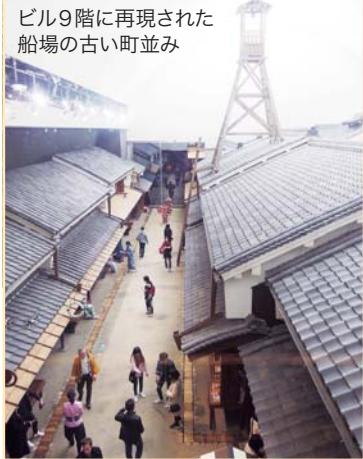


# 大阪くらしの今昔館



歴史をめざして

ビル9階に再現された  
船場の古い町並み



着物姿の外国人旅行  
客で賑わう入り口



模型で再現された明治の町並み

昭和の家電も展示  
されている

着物姿で畳に座るアジア人旅行者

路地裏はタイムスリップ  
した気分になる



四百五十年  
らしの今昔  
館

平成二十九年九月二日



近代の古い通りの模型に見る小学生



文・ジャーナリスト、平野  
幸夫（ひらの・ゆきお）  
元毎日新聞論説委員、日本ベン  
クラブ会員。毎日放送ラジオの  
ニュース番組コメンテーターを  
務め、2015年から関西学院  
大学で「現代ジャーナリズム論  
・日本語文章表現」などの授  
業を担当。著作に「新地方自治  
の論点」「サライ一泊二日の旅・  
金沢」などがある。

ビル9階には船場の商家が再現され、人間国宝だった落語家、桂米朝さんの声で案内され歩くと、江戸時代の路地裏に迷い込んだ気分になります。銭湯、薬屋、小間物屋などの屋内は日本人も懐かしさを感じる。

学芸員の服部麻衣さんは「自然素材の畳で寝ころんだり、縁側に座ると、ほつとした落ち着くようです。外国の方はアニメで知った日本の生活が体験できるのが魅力なのでしょう」と話す。一般600円。

## 「上方の町家体験」が大人気

江戸時代の上方と明治以降の町並みを再現した「大阪くらしの今昔館」（大阪市北区天神橋6）が、外国人旅行客に大人気だ。

日本一長いアーケードがある天神橋筋商店街に2001年オープン。当初、入館者は約10万人程度だったが、関西国際空港への格安航空会社（LCC）の乗り入れ増などに伴い、昨年は約57万人と激増。一度訪れた若い韓国人旅行客らが「貸衣装の着物姿で歩くと、昔の日本に住んでいる気持になれる」とネットで、心地よさを伝えてから、特にアジア人旅行者の間で評判になった。

ビル9階には船場の商家が再現され、人間国宝だった落語家、桂米朝さんの声で案内され歩くと、江戸時代の路地裏に迷い込んだ気分になります。銭湯、薬屋、小間物屋などの屋内は日本人も懐かしさを感じる。学芸員の服部麻衣さんは「自然素材の畳で寝ころんだり、縁側に座ると、ほつとした落ち着くようです。外国の方はアニメで知った日本の生活が体験できるのが魅力なのでしょう」と話す。一般600円。